

関わり続ける定住のカタチの実践による
「結の故郷」づくりに向けた基礎的研究

報告書

平成 30 年 3 月

関西大学環境都市工学部

北詰 恵一

第1章 はじめに

近年、まちづくりなど地域の固有性が重要となる活動において、住民自身の活動への参加が求められている。そして、その中でも地域に対して献身的に振る舞い、地域の問題解決に向けて熱意をもって取り組む人々の存在が極めて重要視されている。しかし、活動に参加する住民が、必ずしも積極的に行動するとは限らない。また、活動の核となる住民が生まれたとしても、住民間で活動への姿勢に温度差が見られ、その熱意が周辺住民や活動の応援団にまで広がっていないのが現状である。

また、地域活動への動機として“地域愛着”が注目されている。地域への感情的なつながりについては様々な研究がされており、これらの感情の程度が該当地域への積極的な関与行動を促す可能性が指摘されている。そして、「地域愛着の度合い」は、交通行動や消費行動などの生活の中での「地域資源との関わりの度合い」が大きいほど増すと考えられている。つまり、地域資源との移動途上接触で醸成された「地域への肯定的な感情」は、地域活動への関与に多様な影響を及ぼすことが従来の研究から明らかにされている点である。

しかし、地域資源接触量は多いが地域愛着が高まらないといったように、本当に「地域資源との接触度合い」と「地域愛着の度合い」は関係があるのか。また、市民参加型の地域活動を行う際、住民の地域認識と行政の地域認識にズレは生じていないかといった点は、地域活動において重要となるであろう。

そこで本研究では、地域活動に参加している人の意識を参加していない人にどのようにして広げていくか、また、地域活動に参加している地域住民が、さらに深く“地域活動”に関わるようになるにはどうすべきかといった2つのテーマを“地域資源接触量”と“地域愛着”といった2つの観点に着目し、関係性を明らかにすることを目的とする。

本研究では、「地域愛着」を“地域に対して慣れ親しんだものに深く惹かれ、離れ難く感じる感情”と捉える。そして、「地域」の範囲として、行政政策の基本的な範囲である、基礎自治体の範囲を本研究の「地域」の範囲とする。また、「地域愛着」の尺度については、地域愛着（選好）・地域愛着（感情）・地域愛着（持続願望）をそれぞれ用いる。地域愛着の各尺度について、地域愛着（選好）は個人的な嗜好の観点から当該地域を肯定的に評価する程度を意味するものである一方、地域愛着（感情）は、そうした嗜好を超えて、当該地域に対して、慣れ親しんだものに深く惹かれ、離れ難く感じる程度を意味するものと解釈する。そして、地域愛着（持続願望）とは、嗜好や感情といった現状の地域に対する認知的、情緒的な地域への心的関与のみを意味するのではなく、地域のあり方そのものに対して“願い”を抱くという地域愛着を意味するものと解釈できる。本研究では、この定義を踏まえて、地域愛着の3要素を地域愛着（選好）・地域愛着（心情）・地域愛着（願望）と言い換えることにする。さらに、本研究では、地域に対する個人的な嗜好の観点から当該地域を肯定的に評価する想いはあるが、活動に参加するなどの行動までに至らない地域愛着を表す地域愛着（関心）を4つ目の要素として加え、「地域愛着」の尺度を4要素に分類し、地域愛着（関心）、地域愛着（選好）、地域愛着（心情）、地域愛着（願望）と一連の流れで醸成されるものとする。

第2章 「地域資源接触量」と「地域愛着」と「地域活動」の関係性分析

2.1 既存研究での仮説

既存研究では、地域試着の規定要因について、年齢や居住年数、性別の他にも周辺環境や近隣住民との接触が地域愛着に影響を及ぼすと指摘されている。また、日常的な移動の中での地域資源との接触が影響を及ぼすといったように、様々な研究結果が報告されている。例えば、通勤などの交通行動において、電車や自動車を使用する人よりも、徒歩、自転車を利用する人の地域愛着が高いといったように、交通行動が、地域資源との関わりの程度に影響を与え、地域愛着に影響を及ぼしているという研究結果や、消費行動において、買い物中周辺住民とコミュニケーションをとるといったように、消費行動中の地域資源との接触が地域愛着に影響を及ぼすという研究結果が発表されている。

「地域愛着」と「地域活動への参加」との関係性については、まちづくり行動や行政の社会基盤整備などの地域に対する活動に、地域愛着が強い人ほど協力的であり、人任せにしない傾向があると指摘されている。

また、地域愛着については、地域資源接触量が大きくなることにより、比較的短期間で地域愛着（選好）が有意に高くなり得るが、地域愛着（心情）と地域愛着（願望）は、地域愛着（選好）を介して、長期的に影響を及ぼす可能性があると報告されている。

2.2 本研究で検証する仮説

よって本研究では、以下の4つの仮説の検証を行う。

仮説①

地域資源（建造物/自然/コミュニティ）として存在する地域資源は、地域愛着（願望/心情/選好）に影響を及ぼす。

仮説②

地域愛着（願望/心情/選好）が醸成されると、地域活動への参加段階の（自主的に参加する）に大きく影響を及ぼし、地域愛着（関心）が醸成されると、地域活動への参加段階の（誘われたら参加する）に影響する。

仮説③

（建築物/自然/コミュニティ）の地域資源との接触量を増加させると、（自主的に参加する）の段階の地域活動を行う人に動機づけできる。

仮説④

地域愛着（関心）にとどまる人は、地域資源との接触のシチュエーションの工夫を促すことで、地域愛着（選好）または地域愛着（心情）（願望）へステップアップできる。

2.3 アンケート概要

大野市民を対象にアンケートを行った。調査項目は、①基本項目、②地域資源との関わりについて、③大野市への“想い”について、④大野市で行われる活動への意欲について、⑤大野市民にとっての地域資源評価の5つに分類し、アンケート原案を作成した。調査内容を以下にまとめる。

①基本項目

アンケート回答者の基本的なデータを集めるため、性別/年齢/世帯主との続柄/大野市生まれか否か/大野市での居住年数/お住いの町目（郵便番号）/お住いの住宅形態について回答を求めた。

②地域資源とのかかわりについて

地域資源との接触により地域愛着が醸成されるという仮説の背景を明確にとらえるために、まず、大野市にある地域資源を「建造物」「自然」「コミュニティ」の3種類に分類し、それぞれ分野において4つもしくは5つの地域資源を挙げ、回答者にとって最も関わりのあるものを回答してもらった。

次に、その地域資源との接触のシチュエーションを、“普段からよく目にする”のように「生活」の中で関わる場合と、“地域資源に関わる活動に参加したいと思う”のように「イベント」の中で関わる場合、そして、“地域資源の良い評判を聞くとうれしく思う”のように「観光(評判)」の中で関わる場合の3つのパターンに分類し、質問した。これらの質問に対し、「とてもそう思う」「そう思う」「どちらでもない」「そう思わない」「全然そう思わない」の5段階での回答を求めた。

③大野市への“想い”について

大野市民が大野市に対してどれだけ“愛着”を抱いているかを確認するために、既存研究の質問項目を使用する。さらにそれらに加え、地域愛着（願望）に“遠くにいても大野市に貢献したい”という質問を加える。これは、交通面や進学面などの様々な理由で、大野市では多くの若者が市外へ移住するという背景を踏まえ、他都市に比べ、支援したいという想いが結果として見られるのではないかという考えから加えた項目である。また、本研究では「地域愛着」を4要素に分類し、一連の流れで醸成されるものと捉えるので、3つの質問項目を地域愛着（関心）の質問として加えた。これらの質問に対し②同様、「とてもそう思う」から「全然そう思わない」の5段階での回答を求めた。

④大野市で行われる活動への意欲について

大野市では、過疎化対策の活動や地域資源の一つである“清水(湧水)”のPR活動など、さまざまな地域活動が行われている。よって、回答者が現在、それらの活動に対し、どれ程意欲的に参加しているのかを把握するために、「積極的に参加する」「自主的に参加する」「誘われたら参加する」「消極的に参加する」「参加しない」「あえて参加しない」の6段階での回答を求めた。

⑤大野市民にとっての地域資源評価

②で挙げた地域資源は、インターネットやパンフレットなどで取り上げられているものだ。しかし、大野市民にとっての地域資源は、観光客に向けて発信されているものとは異なる可能性がある。よって、実際に大野市に住む市民にとっての地域資源を把握するために、33個の地域資源を挙げ、その地域資源が、大野市にとっての象徴だと思うかについて「そう思う」「そう思わない」「どちらでもない」での回答を求めた。

2.4 アンケートの質問項目

2.4.1 「②地域資源とのかかわりについて」の質問内容

1.地域資源（建造物）

1-1) 以下の歴史、文化、伝統に関する建造物「大野城/寺町通り・朝市通り/武家屋敷旧内山家・武家屋敷旧田村家/宝慶寺・黒谷観音/百間堀・笛資料館・大野市歴史博物館」のうち、最も関わりが深いと感じるもの

1-2) 1-1) で選択した地域資源との関わりについて

「生活」の中での関わり：普段からよく目にする/生活の中で訪れることがある（例・散歩）/学校教育も含め、今まで調べたことがある

「イベント」を通しての関わり：この地域資源に関わるイベント、祭りに積極的に参加したいと思う（例・おおの城まつり）/この地域資源を守っていく活動への協力は厭わない

「観光（評判）」の中での関わり：観光客やマスコミなどで良い評判を聞くとうれしく思う/観光客と触れ合うとうれしく思う/市にこの地域資源があることを誇りに思う

2.地域資源（自然）

2-1) 以下の自然環境、食、地場産品「清水（湧水）/九頭竜湖/荒島岳/そば・地酒」のうち、最も関わりが深いと感じるもの

2-2) 2-1) で選択した地域資源との関わりについて

「生活」の中での関わり：普段からよく目にする、話題になる/美しい、素晴らしいと思う/恩恵を受けている/訪れたり、食べたり飲んだりする機会が多い

「イベント」を通しての関わり：この地域資源に関わるイベントに積極的に参加したいと思う（例・九頭竜紅葉まつり）/地域資源を守っていく活動への協力は厭わない

「観光（評判）」の中での関わり：観光客やマスコミ、ネットなどで良い評判を聞くとうれしく思う/観光客と触れ合うとうれしく思う/市にこの地域資源があることを誇りに思う

3.地域資源（コミュニティ）

3-1) 以下の人とのコミュニティ「大野市で開催される祭り/大野市ポスター展・大野大人図鑑/広報おおの/人力車（越前こぶし組）」のうち、最も関わりが深いと感じるもの

3-2) 3-1) で選択した地域資源との関わりについて

「生活」の中での関わり：大野市にいろいろな人々がいることがわかる/日常生活で人と触れ合える機会が増える/近所や市内での人とのつながりが強まる

「イベント」を通しての関わり：地域資源に対して考える良い機会となっている/協力できるイベントに自分が協力することは厭わない/年代を超えたつながりが強まる（例・大野へかえろうプロジェクトを通して）

「観光（評判）」の中での関わり：観光客やマスコミ、ネットなどで良い評判を聞くとうれしく思う/観光客と触れ合うとうれしく思う/市にこの地域資源があることを誇りに思う

2.4.2 「③大野市への“想い”について」の質問内容

地域愛着（関心）：土地柄と地域活動がマッチしていないと感ずることがある/土地柄と地域活動がマッチしていないと感ずるため、地域活動に参加しない/大野市に対する愛着はあるが、今は地域活動に参加しようとは思わない

地域愛着（選好）：住みやすいと思う/お気に入りの場所がある/市内を歩くのは気持ちよい/雰囲気や土地柄が気に入っている/大野市が好きだ/リラックスできる

地域愛着（心情）：大切だと思ふ/愛着を感ずている/自分の居場所があると感ずる/自分の“まち”だという感ずりがする/ずっと住み続けたい

地域愛着（願望）：いつまでも変わってほしくないものがある/無くなってしまうと悲しいものがある/遠くにいても大野市に貢献したい

2.4.3 「④大野市で行われる活動への意欲について」の質問内容

1.身近な地域活動について

1-1) 協力度合い「積極的に参加している/自主的に参加している/誘われたので参加している/消極的であるが参加している/参加しない/あえて参加しない」

1-2) 1-1) の理由：身近な地域の整備は、行政がやってくれるだろうと思っている/身近な地域をよくする活動は、熱心な人に任せればよい/自治会活動などに市民は参加すべきだ/身近な問題に取り組む活動に市民は参加すべきだ

2.大野市全体の活動について

2-1) 協力度合い「積極的に参加している/自主的に参加している/誘われたので参加している/消極的であるが参加している/参加しない/あえて参加しない」

2-2) 2-1) の理由：大野市の整備は、行政がやってくれるだろうと思っている/大野市をよくする活動は、熱心な人に任せればよい/大野市の問題に取り組む活動に市民は参加すべきだ

2-3) 大野市の活動に対する地域住民の行動の規定要因

協力的意図：大野市で問題が生じたとき、大野市全体のことを考えた発言をしたい/問題解決に向けて、行政や近隣住民と話し合って決めていきたい/

非協力的意図：大野市で問題が生じたとき、自分の生活を改善するために発言していきたい/大野市に不満を感じたとき、不満をやわらげるために発言したい

規範意識：自分にとって、大野市の問題は重要な関心事だ/あなたは大野市の問題について、積極的に発言すべきだと思ふ

住民特権意識：自分は、大野市のことをよく知っていると思ふ/行政は、市民にもっと情報を公開すべきだと思ふ

対処有効性認知：自分自身が発言することによって、大野市の問題を解決できると思ふ

知覚行動制御：あなたは、大野市の問題について発言することは容易だと思ふ

第3章 アンケート結果

3.1 アンケート集計結果

今回、福井県大野市民を対象者として郵送配布・回収によるアンケート調査を行った。調査期間は、平成29年12月8日から平成30年1月9日とし、大野市全域に合計1,120通のアンケートを配布した。結果、回答者数は大野市民338人（男性：192名、女性：142名、不明：4名）、回収率が30.2%であった。年齢別でみると、表3.1-1のように50代から70代の回答者の割合が高い。国勢調査によると、大野市の総人口は、33,109人で、年齢別にまた割合を表3.1-2に示す。また、回答者のうち、大野市生まれが265人、そうでない人が70人、不明が4人であり、

表 3.1-1 年齢別にみた
アンケート回答

年齢	(単位:人)	
10代	2	0.59%
20代	5	1.48%
30代	22	6.51%
40代	27	7.99%
50代	59	17.46%
60代	127	37.57%
70代	68	20.12%
80代	21	6.21%
90代	1	0.30%
不明	6	1.78%
合計	338	100.00%

表 3.1-2 大野市の人口（単位:人）

在住歴別にみると大野市に50年から70年住んでいる人の回答者の割合が高かった。在住歴と年齢を照らし合わせると表3.1-3のようになった。現在大野市に住んでいる人の中にも、一度市外に出ている人が多いことが確認された。年齢等の偏りについては、補正した分析を改めて行うこととし、本報告ではこのまま分析を進める。このため、年齢補正により、分析結果が変わることがある。

	男性	女性	総数	
～10代	1176	1180	2356	7.12%
10代	1443	1388	2831	8.55%
20代	1282	1181	2463	7.44%
30代	1633	1634	3267	9.87%
40代	1820	1862	3682	11.12%
50代	2134	2316	4450	13.44%
60代	2897	2829	5726	17.29%
70代	1918	2441	4359	13.17%
80代	1211	2007	3218	9.72%
90～代	165	592	757	2.29%
	15679	17430	33109	100.00%

(平成27年度実施 国勢調査より)

表 3.1-3 在住歴と年齢の関係（単位：人）

	～10年	10年～	20年～	30年～	40年～	50年～	60年～	70年～	80年～	90年～
10代	0	2								
20代	0	0	5							
30代	3	3	3	13						
40代	1	4	3	6	13					
50代	0	1	4	5	10	39				
60代	0	2	4	5	11	21	84			
70代	2	3	0	2	1	11	11	38		
80代	0	0	1	0	1	2	2	2	13	
90代	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1

3.2 分析結果からみた「地域資源接触量」と「地域愛着」と「地域活動」の関係性

アンケート結果から、三つのメカニズムを考察する。

3.2.1 「地域資源接触」と「地域愛着」の関係性

地域資源接触から醸成される地域愛着について述べる。

まず、地域資源（建造物）について、5つの選択肢のうち、「大野城」「寺町通り・七間通り」を選択した人が全体の86.1%であった。このことから、大野市全体の象徴であり、観光名所でもある大野城と、古くから市民の集いの場となっている寺町通り・七間通りが、大野市の建造物の地域資源として挙げられるといえる。また、アンケート結果から、これらの地域資源との接触のシチュエーションとして、表3.2-1のように、「観光（評判）」（質問31～33）の中での接触が多いことが分かった。

表 3.2-1 地域資源（建造物）との接触度

大野城において(172人中)			寺町通り・七間朝市通りにおいて(119人中)		
質問11	158	91.86%	質問11	100	84.03%
質問12	93	54.07%	質問12	81	68.07%
質問13	86	50.00%	質問13	39	32.77%
質問21	97	56.40%	質問21	56	47.06%
質問22	93	54.07%	質問22	62	52.10%
質問31	156	90.70%	質問31	106	89.08%
質問32	128	74.42%	質問32	85	71.43%
質問33	148	86.05%	質問33	103	86.55%

武家屋敷について		
質問11	5	71.43%
質問12	5	71.43%
質問13	2	28.57%
質問21	4	57.14%
質問22	4	57.14%
質問31	7	100.00%
質問32	6	85.71%
質問33	6	85.71%

寺について		
質問11	16	69.57%
質問12	13	56.52%
質問13	13	56.52%
質問21	11	47.83%
質問22	13	56.52%
質問31	20	86.96%
質問32	19	82.61%
質問33	19	82.61%

百間堀について		
質問11	5	62.50%
質問12	3	37.50%
質問13	3	37.50%
質問21	3	37.50%
質問22	6	75.00%
質問31	6	75.00%
質問32	7	87.50%
質問33	7	87.50%

しかし、地域資源（建造物）との接触から地域愛着への結びつきが最も強く表れたのは、「イベント」を通して地域資源と関わった人たちであった。（図 3.2-1）

また、4つの地域愛着の中で、地域資源（建造物）との接触によって、最も地域愛着（心情）に影響を与えていることが確認された。

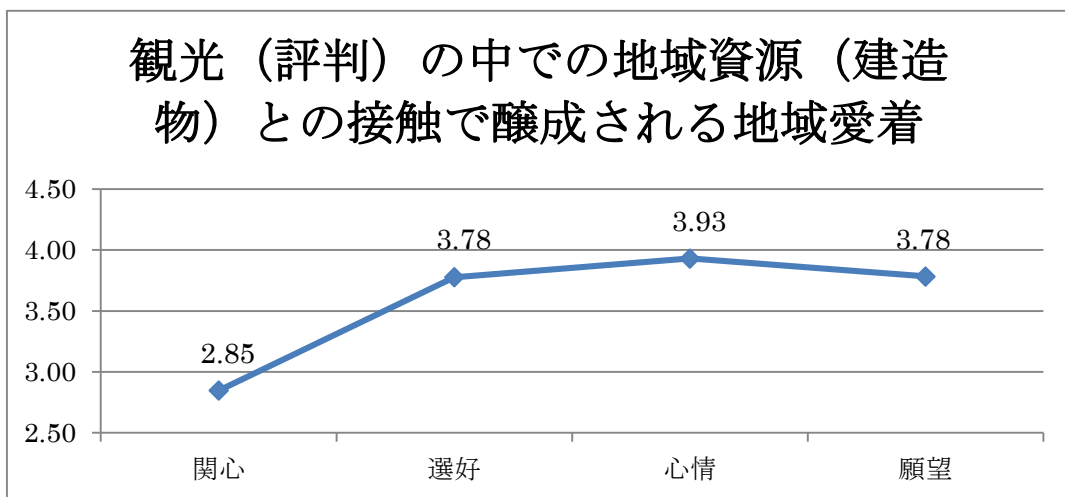
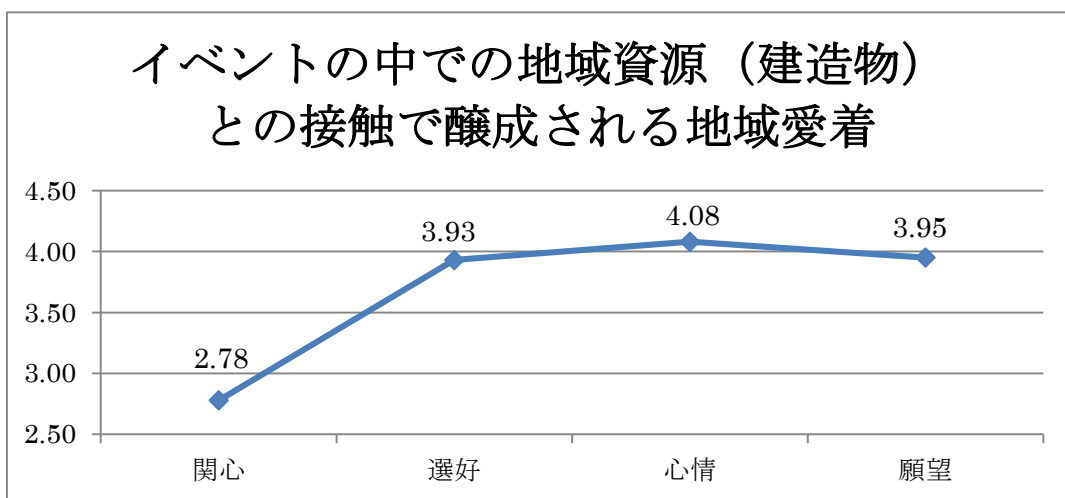
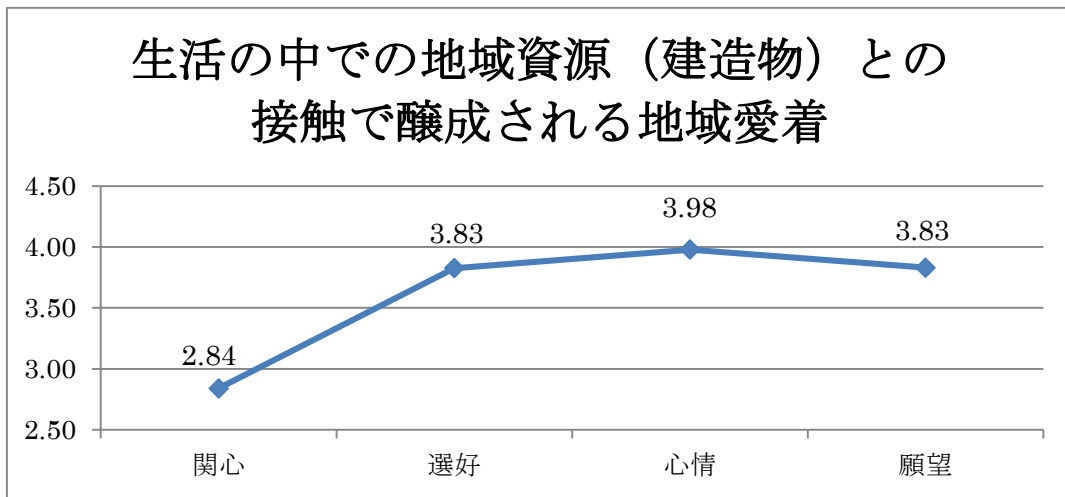


図 3.2-1 接触のシチュエーションごとにみた
地域資源（建造物）接触と地域愛着の関係性

地域資源（自然）については、「清水（湧水）」を選択した人が最も多かったが、地域資源（建造物）に比べ、選択された地域資源のバラつきは小さかった。その中で、最も選択者が少なかった地域資源は、観光地としても有名な「九頭竜湖」であった。このことから、

地域資源（建造物）と違い、「清水（湧水）」「そば・地酒」のように、身近に感じるものの方が地域資源として認識されやすいことが考えられる。また、地域資源との接触のシチュエーションについては、地域資源（建造物）と同様、「観光（評判）」（質問 31～33）の中での接触が多いことが確認されたが、「生活」（質問 11～14）の中でも、いくつか高い数値がみられた。（表 3.1.3）

表 3.2-2 地域資源（自然）との接触度

清水について (126人中)			九頭竜湖について (28人中)			荒島岳について (80人中)			そば・地酒について (97人中)		
質問11	109	86.51%	質問11	23	82.14%	質問11	77	96.25%	質問11	80	82.47%
質問12	121	96.03%	質問12	27	96.43%	質問12	76	95.00%	質問12	81	83.51%
質問13	113	89.68%	質問13	17	60.71%	質問13	51	63.75%	質問13	47	48.45%
質問14	82	65.08%	質問14	14	50.00%	質問14	15	18.75%	質問14	73	75.26%
質問21	77	61.11%	質問21	22	78.57%	質問21	29	36.25%	質問21	56	57.73%
質問22	85	67.46%	質問22	19	67.86%	質問22	40	50.00%	質問22	53	54.64%
質問31	118	93.65%	質問31	26	92.86%	質問31	72	90.00%	質問31	87	89.69%
質問32	97	76.98%	質問32	19	67.86%	質問32	58	72.50%	質問32	76	78.35%
質問33	120	95.24%	質問33	25	89.29%	質問33	67	83.75%	質問33	88	90.72%

また、地域資源（自然）との接触は、地域資源（建造物）同様、地域愛着（心情）に最も影響を与えていることが確認された。接触のシチュエーションの違いによる影響度合いは、「イベント」の中で関わった人が、地域資源接触から地域愛着の結びつきが最も強くみられたが、他の2つのシチュエーションとの差は、それほど大きいものではなかった。（図 3.1-2）

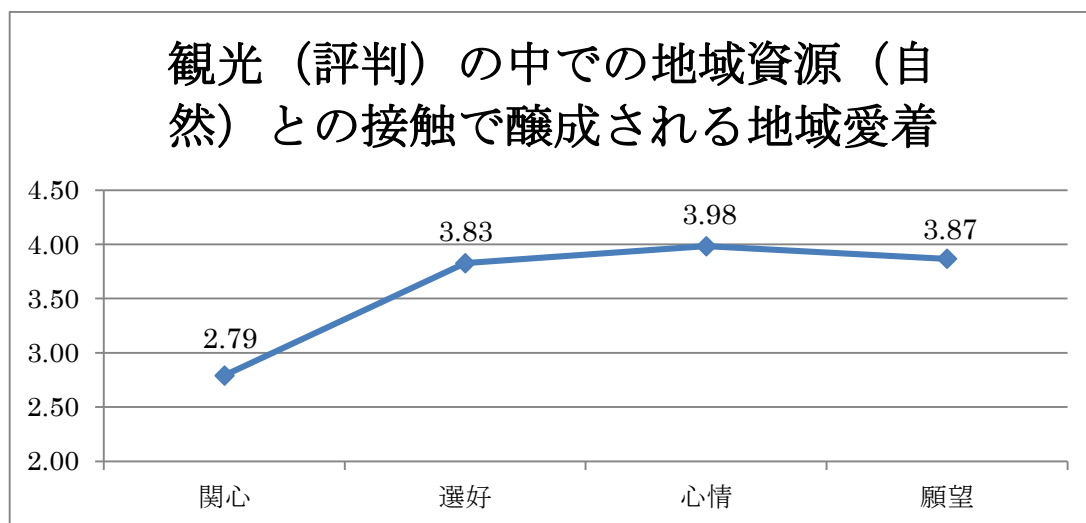
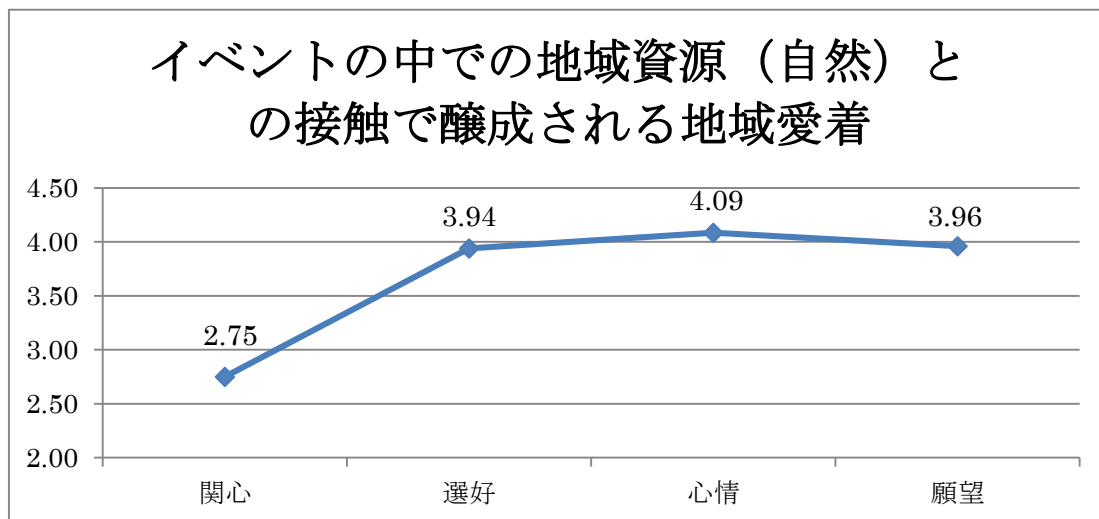
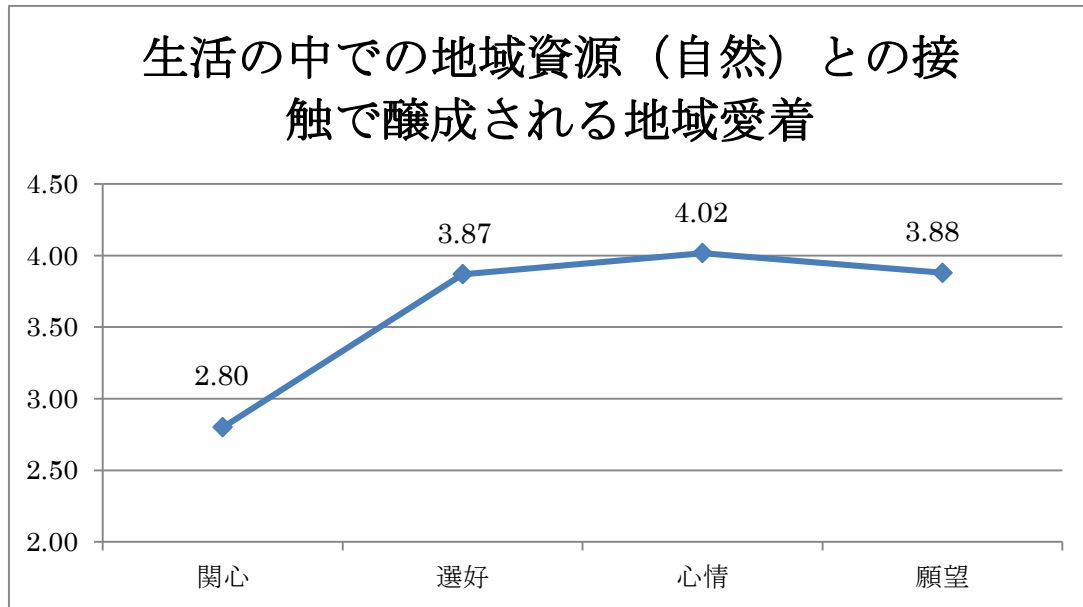


図 3.2-2 接触のシチュエーションごとにみた地域資源（自然）接触と地域愛着の関係性

地域愛着（コミュニティ）については、4つの選択肢のうち、「大野市で開催される祭り」「広報おおの」を選択した人が、全体の92.6%であった。このことから、大野市で行なわれている年間16もの祭り・イベントは、地域資源と認識されているが、地域創生を目的に市が力を入れている活動は、住民に深く根付いていない可能性が示唆された。また、地域資源との接触については、地域資源（建造物）（自然）に比べ、接触のシチュエーションごとにそれほど大きな差は見られなかった。（表3.2-3）

表 3.2-3 地域資源（コミュニティ）との接触

大野市で開催される祭りについて (166人中)			ポスター展について (8人中)			広報おおのについて (147人中)			人力車について (4人中)		
質問11	131	78.92%	質問11	8	100.00%	質問11	120	81.63%	質問11	3	75.00%
質問12	117	70.48%	質問12	3	37.50%	質問12	56	38.10%	質問12	4	100.00%
質問13	113	68.07%	質問13	3	37.50%	質問13	67	45.58%	質問13	2	50.00%
質問21	101	60.84%	質問21	6	75.00%	質問21	105	71.43%	質問21	4	100.00%
質問22	100	60.24%	質問22	5	62.50%	質問22	73	49.66%	質問22	2	50.00%
質問23	93	56.02%	質問23	5	62.50%	質問23	57	38.78%	質問23	1	25.00%
質問24	110	66.27%	質問24	6	75.00%	質問24	73	49.66%	質問24	2	50.00%
質問31	144	86.75%	質問31	8	100.00%	質問31	118	80.27%	質問31	4	100.00%
質問32	131	78.92%	質問32	6	75.00%	質問32	92	62.59%	質問32	4	100.00%
質問33	135	81.93%	質問33	7	87.50%	質問33	103	70.07%	質問33	4	100.00%

地域資源（コミュニティ）との接触は、地域資源（建造物）（自然）同様、地域愛着（心情）に最も影響を与えていることが確認された。接触のシチュエーションの違いによる影響度合いは、地域資源（自然）同様、「イベント」の中で関わった人が、地域資源接触から地域愛着の結びつきが最も強くみられたが、他の2つのシチュエーションとの差は、それほど大きいものではなかった。（図3.2-3）

また、地域資源（建造物）（自然）同様、全ての接触のシチュエーションにおいて、地域愛着（コミュニティ）のみ「3＝どちらでもない」を下回っていることが確認された。よって、地域資源（コミュニティ）との接触は、地域愛着（選好）（心情）（願望）に影響を与え、地域愛着（関心）の醸成へとはつながらない可能性が示唆された。

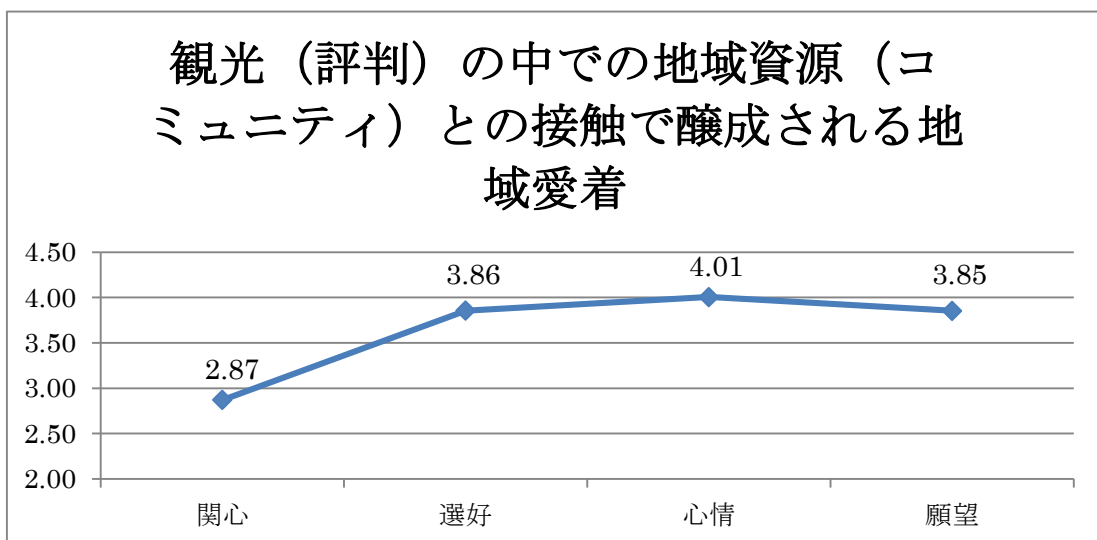
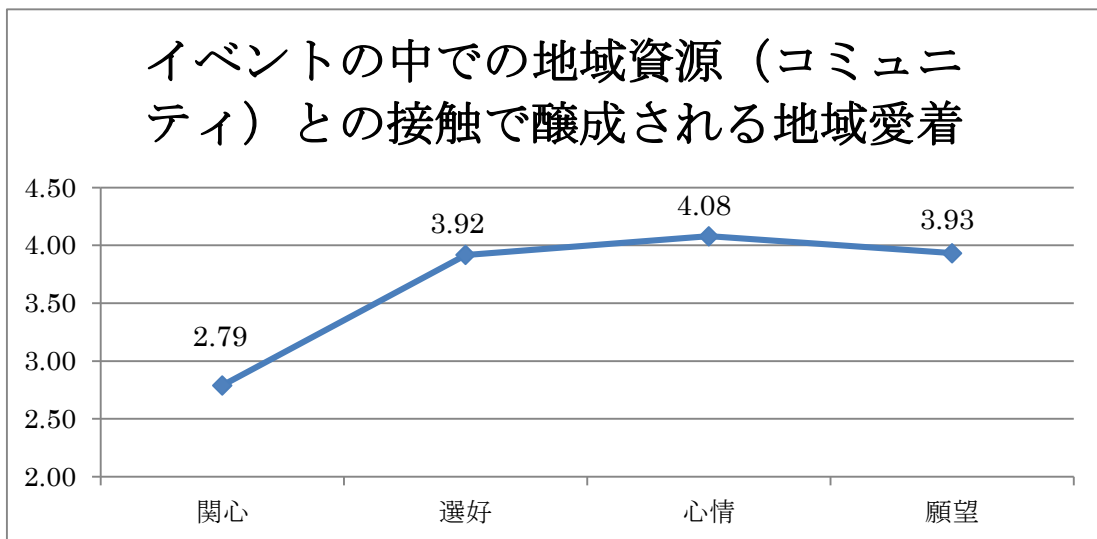
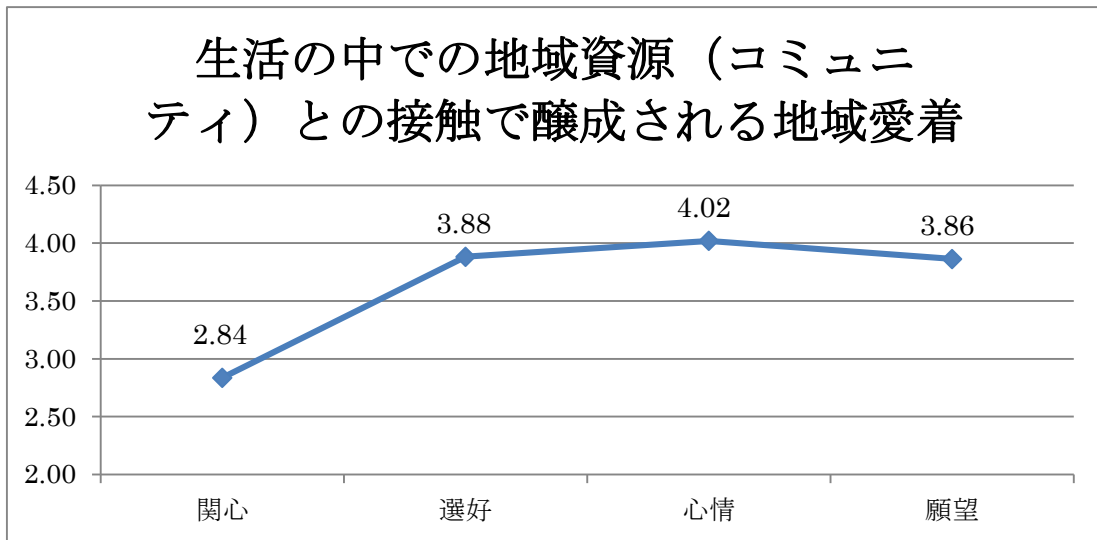


図 3.2-3 接触のシチュエーションごとにみた地域資源（コミュニティ）接触と地域愛着の関係性

「地域資源接触」と「地域愛着」の関係性の背景を捉えるために、接触のシチュエーション、地域資源の種類を分けて研究を行った。結果、地域資源（建造物）においては、接触のシチュエーションの違いによって、地域愛着に与える影響に多少の差が確認されたが、総じていえば、接触のシチュエーション、地域資源の種類が変化しても、地域愛着に与える影響に大きな差はないといえる。

また、地域資源との接触によって、最も影響される地域愛着は、地域愛着（心情）であった。つまり、地域資源接触量と地域愛着が比例関係にあるという既存研究とは、違う結果が得られた。さらに、地域資源との接触によって醸成される地域愛着において、地域愛着（関心）と地域愛着（選好）（心情）（願望）の間には差があり、（関心）は地域資源接触による影響を受けない可能性があることが確認された。

3.2.2 「地域愛着」と「地域活動」の関係性

地域愛着から地域活動への参加度合の関係性について述べる。

本研究で用いたアンケートでは、地域活動への参加度を6段階で回答を求めた。よって、分析にあたり、「積極的に参加する＝6」「自主的に参加する＝5」「誘われたら参加する＝4」「消極的に参加する＝3」「参加しない＝2」「あえて参加しない＝1」と重みづけをし、地域愛着を持つ人の参加度合を求めた。

まず、身近な地域での活動に対する参加度合について、地域愛着（願望）を持つ人が最も高い数値を示した。しかし、地域愛着（選好）（心情）を持つ人も同等の数値を示した（図3.2-4）

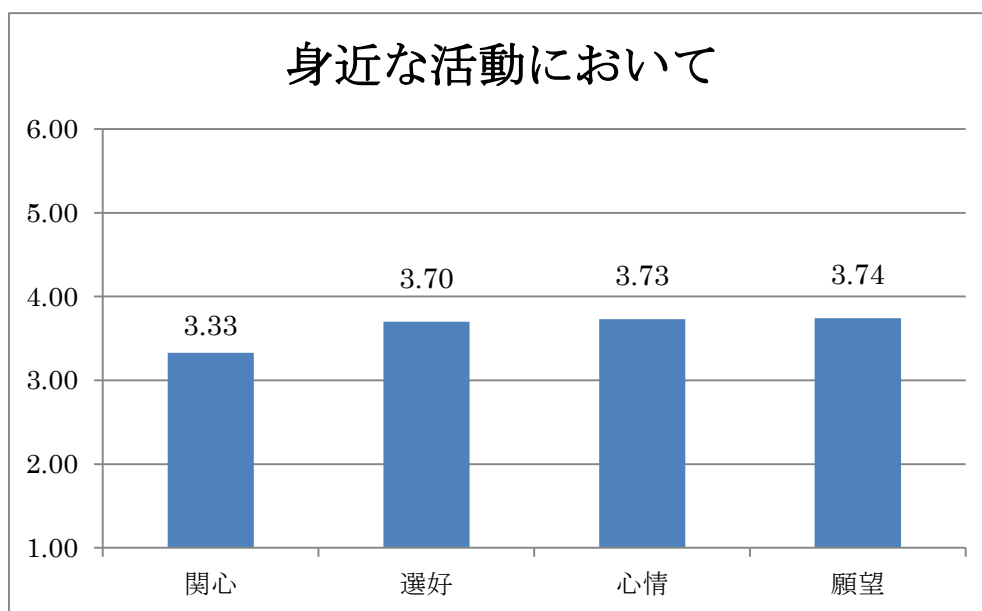


図 3.2-4 地域愛着と身近な活動への参加度合の関係性

地域愛着が高いほど地域活動に協力的であるという既存研究の結果通りのデータが本研究でも得られたが、地域愛着（選好）（心情）（願望）が醸成されれば、身近な地域活動の

参加度合に差はみられない可能性が考えられる。そして、観測された活動への参加度合が 3.74、つまり、「誘われたら参加する」であったため、本研究の仮説②は、身近な活動においては成り立たないことが確認された。

また、身近な活動に対する行動の規定要因については、活動に対し協力的な人ほど「身近な地域の整備は、行政がやってくれるだろうと思っている」「身近な地域をよくする活動は、熱心な人に任せれば良い」といったような質問に対して低い数値が確認された。よって、活動に協力的な人ほど、自治会活動などの地域活動を他人任せにしない傾向があることが確認された。

次に、大野市全体の活動に対する参加度合について、身近な活動の時に比べ全体的に低い数値となったが、身近な活動の参加度合と同様、地域愛着（願望）も持つ人が最も高い数値を示し、地域愛着（選好）（心情）を持つ人も同等の数値を示した。また、地域愛着（関心）について、身近な活動と比べ、地域愛着（選好）（心情）（願望）との差が小さいことが確認された。（図 5.2-5）このことから、範囲の広い活動の方が、近隣住民とのしがらみなどの負の影響を受けにくい可能性が考えられる。

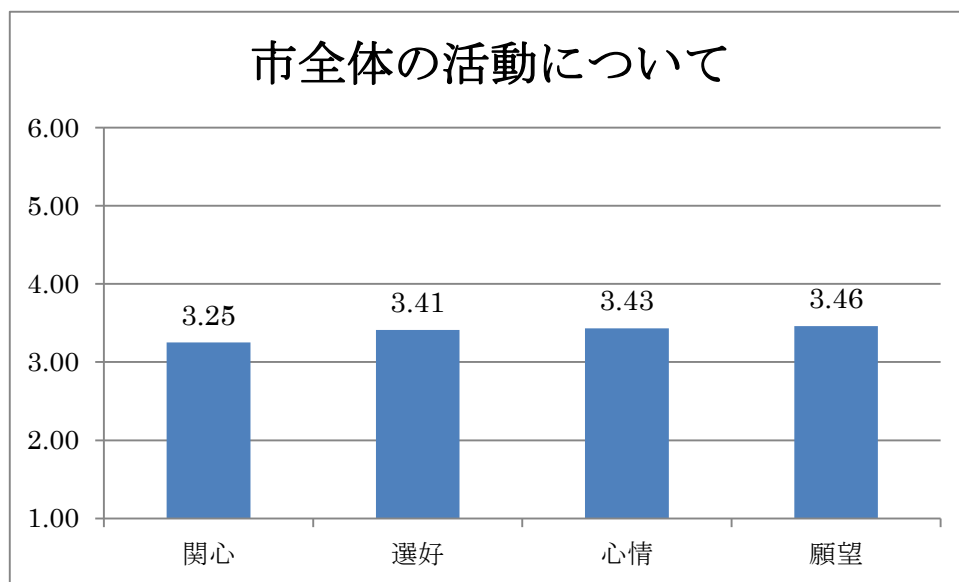


図 3.2-5 地域愛着と大野市全体の活動への参加度の関係性

この結果より、大野市全体の活動においても、地域愛着が高いほど地域活動に協力的であるという既存研究通りの結果が得られた。しかし、その差は僅かなものであった。そして、観測された活動への参加度合が 3.46、つまり、「誘われたら参加する」と「消極的に参加する」の間であったため、本研究の仮説②は市全体の活動においても成り立たないことが確認された。

また、大野市全体の活動に対する行動の規定要因として、身近な活動の参加度合と同様、活動に協力的な人ほど、自治会活動などの地域活動を他人任せにしない傾向があることが確認された。しかし、住民意識の質問項目の一つである「行政は、市民にもっと情報を公開すべきだと思う」の質問項目に対しては、「あえて参加しない」と回答した人が「積極的

に参加する」と回答した人に次ぎ、高い数値を示した。このことから、「あえて参加しない人」は、市自体のこと、市の活動について興味がないという訳ではないことが確認された。よって、行政が市民に対する情報公開方法の工夫をすることで、大野市全体の活動に参加していない人が、協力的行動をとる人になる可能性が示唆された。

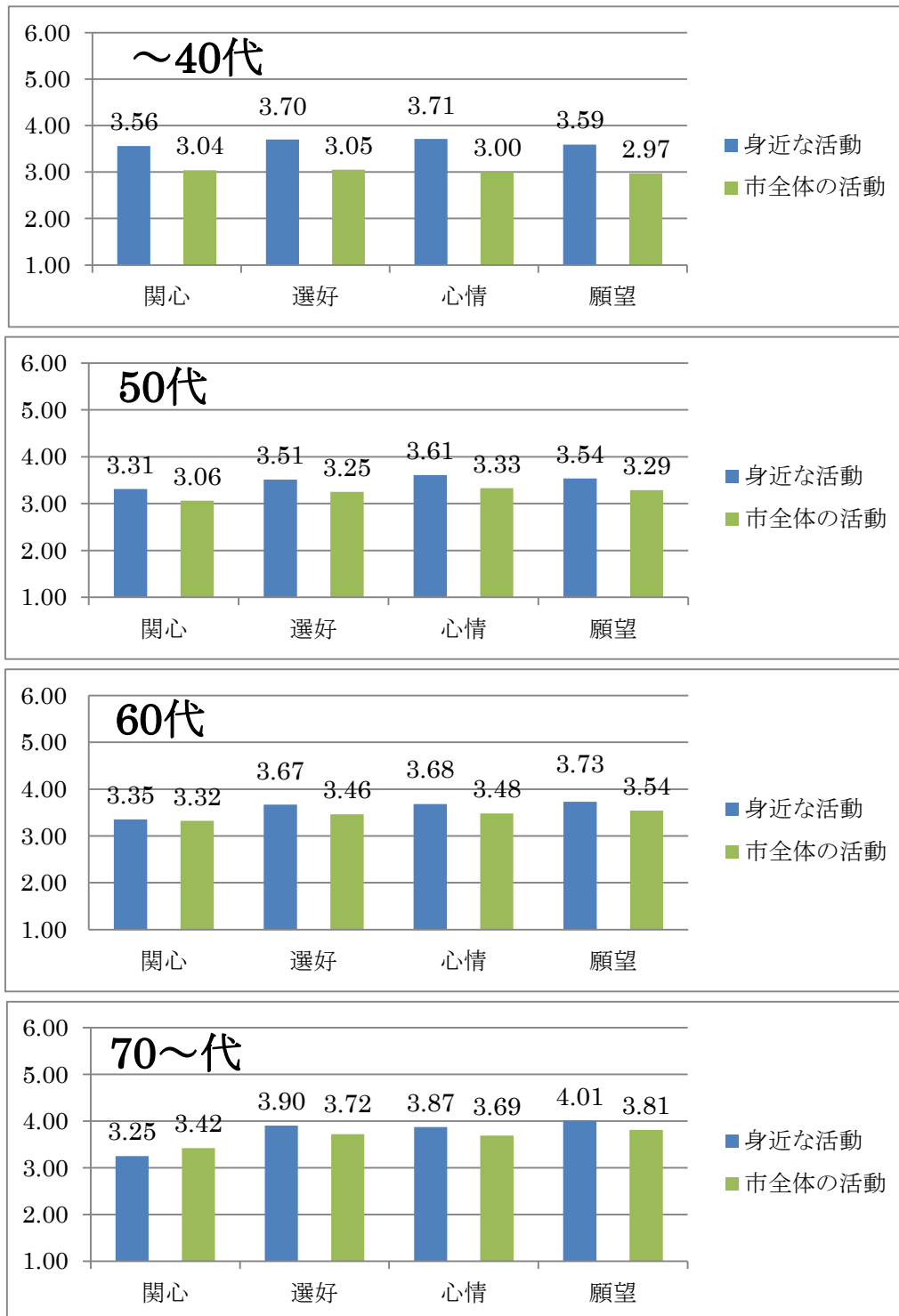


図 3.2-6 年齢別にみた地域愛着と地域活動への参加度の関係性

さらに、ここから地域愛着から地域活動の関係性を、年齢別にみることにした。サンプル数を均等に近づけるため、“～40代”“50代”“60代”“70～代”の4つに分けて分析を行った。その結果、身近な活動の“～40代”を除いては、年齢が増すにつれ、地域活動への参加度合も増すという結果が得られた。(図 3.2-6) これに、既存研究で発表されている「地域愛着(心情)(願望)は、地域愛着(選好)を介して長期的に醸成される」という研究結果をつなげると、対象地域に長く住むことで、より深い地域愛着が醸成され、その結果地域活動に協力的な行動をとる可能性が高いということが考えられる。

3.2.3 「地域資源接触」と「地域活動」の関係性

地域資源接触と地域活動への参加度合の関係性について、地域資源と接触した人が、どれほど地域活動に対し協力的行動をとっているかを分析したところ、地域資源(建造物)(自然)(コミュニティ)の全てで、僅かだが「イベント」の中で接触した場合が、最も地域活動に協力的であるということが分かった。(図 3.2-7)

また、観測された数値によれば、地域活動の参加度合は「誘われたら参加する」であり、自ら参加するとは言えない。

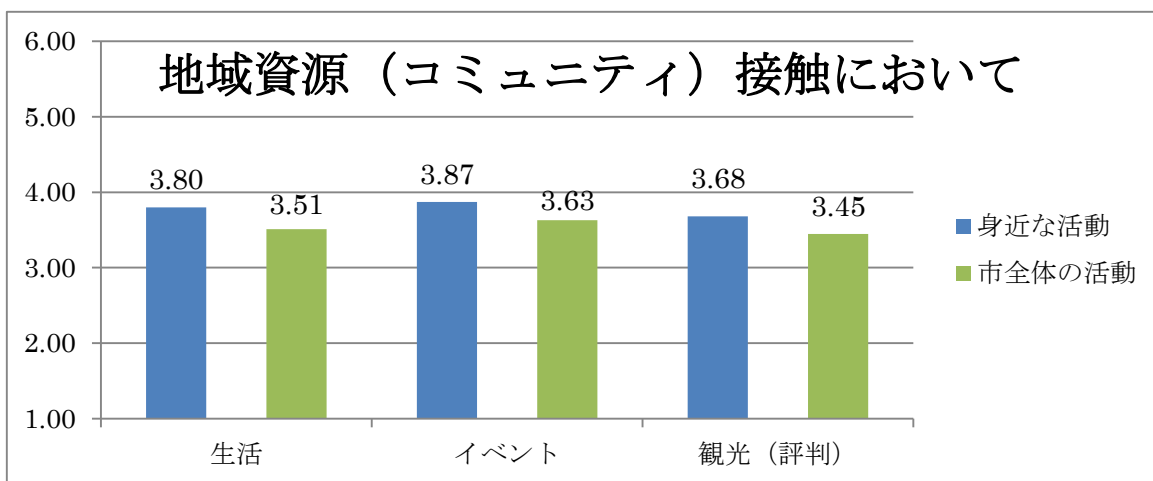
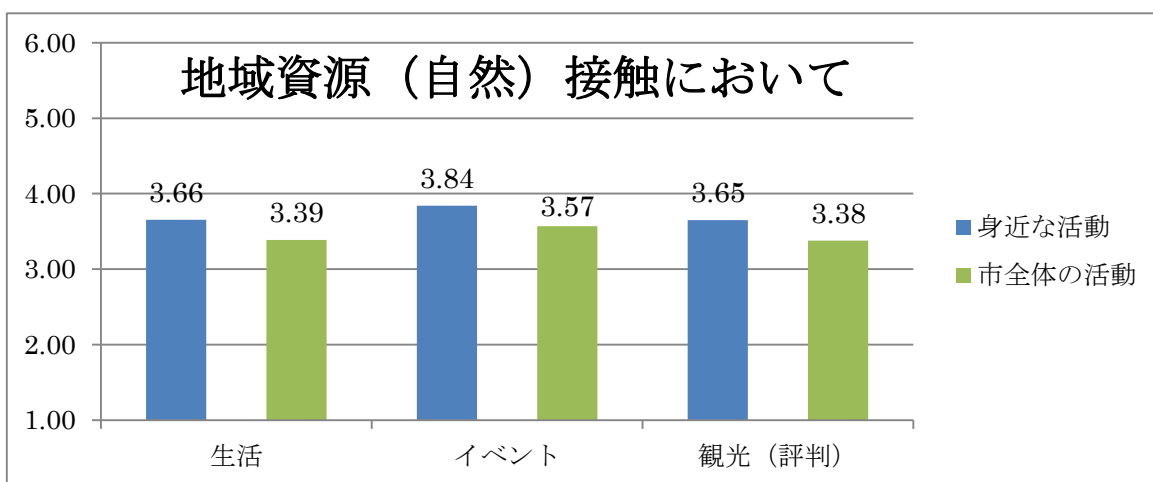
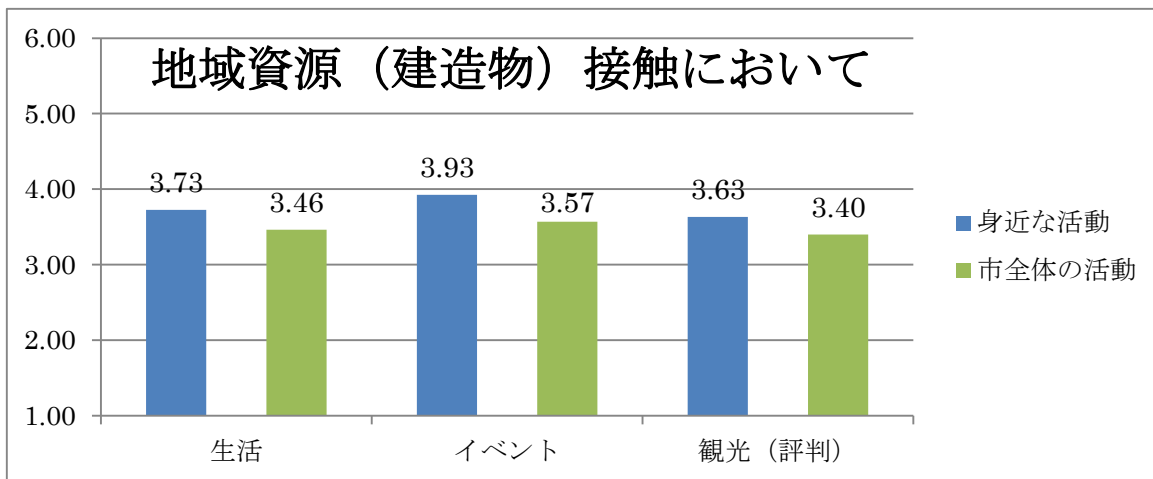


図 3.2-7 地域資源の種類別にみた地域資源接触と地域活動への参加度の関係性

しかし、現在活動している人、もしくはそうでない人が、これまで地域資源とどのように関わってきたかを分析するために、活動の参加度合ごとに、地域資源との関わり方を確認したところ、以下の結果が得られた。(表 3.2-4,5,6)

表 3.2-4 地域資源（建造物）との関わり方

身近な活動において								
参加度合	質問11	質問12	質問13	質問21	質問22	質問31	質問32	質問33
積極的	93.10%	75.86%	58.62%	82.76%	82.76%	93.10%	93.10%	93.10%
自主的	92.06%	69.84%	55.56%	69.84%	80.95%	87.30%	80.95%	90.48%
誘われたら	77.61%	56.72%	46.27%	50.75%	53.73%	89.55%	79.10%	85.07%
消極的	88.99%	57.80%	38.53%	47.71%	38.53%	89.91%	69.72%	87.16%
しない	77.78%	44.44%	33.33%	24.07%	37.04%	87.04%	59.26%	70.37%
あえてしない	100.00%	75.00%	25.00%	75.00%	75.00%	100.00%	100.00%	100.00%
市全体の活動において								
参加度合	質問11	質問12	質問13	質問21	質問22	質問31	質問32	質問33
積極的	93.75%	87.50%	68.75%	75.00%	93.75%	100.00%	100.00%	100.00%
自主的	86.27%	62.75%	52.94%	76.47%	70.59%	88.24%	80.39%	92.16%
誘われたら	76.12%	58.21%	49.25%	47.76%	59.70%	85.07%	79.10%	83.58%
消極的	93.16%	62.39%	41.88%	48.72%	42.74%	92.31%	72.65%	89.74%
しない	83.10%	46.48%	29.58%	39.44%	42.25%	85.92%	61.97%	71.83%
あえてしない	100.00%	40.00%	60.00%	60.00%	80.00%	100.00%	100.00%	100.00%

表 3.2-5 地域資源（自然）との関わり方

身近な活動において									
参加度合	質問11	質問12	質問13	質問14	質問21	質問22	質問31	質問32	質問33
積極的	86.21%	100.00%	82.76%	62.07%	79.31%	86.21%	96.55%	93.10%	96.55%
自主的	88.89%	93.65%	77.78%	66.67%	71.43%	77.78%	96.83%	82.54%	95.24%
誘われたら	92.54%	91.04%	68.66%	56.72%	50.75%	58.21%	94.03%	80.60%	92.54%
消極的	88.99%	92.66%	66.06%	54.13%	55.05%	55.96%	91.74%	69.72%	88.07%
しない	75.93%	81.48%	55.56%	40.74%	27.78%	31.48%	77.78%	61.11%	81.48%
あえてしない	100.00%	100.00%	75.00%	50.00%	75.00%	50.00%	100.00%	75.00%	100.00%
市全体の活動において									
参加度合	質問11	質問12	質問13	質問14	質問21	質問22	質問31	質問32	質問33
積極的	93.75%	100.00%	93.75%	81.25%	93.75%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%
自主的	84.31%	94.12%	74.51%	60.78%	74.51%	70.59%	96.08%	80.39%	94.12%
誘われたら	86.57%	88.06%	62.69%	50.75%	55.22%	59.70%	88.06%	79.10%	88.06%
消極的	91.45%	94.02%	65.81%	57.26%	52.14%	58.97%	93.16%	70.94%	92.31%
しない	78.87%	84.51%	66.20%	47.89%	39.44%	42.25%	83.10%	64.79%	81.69%
あえてしない	100.00%	80.00%	100.00%	100.00%	40.00%	80.00%	100.00%	100.00%	100.00%

表 3.2-6 地域資源（コミュニティ）との関わり方

身近な活動において										
参加度合	質問11	質問12	質問13	質問21	質問22	質問23	質問24	質問31	質問32	質問33
積極的	93.10%	86.21%	72.41%	79.31%	82.76%	68.97%	86.21%	93.10%	93.10%	93.10%
自主的	82.54%	66.67%	63.49%	71.43%	79.37%	63.49%	68.25%	82.54%	73.02%	76.19%
誘われたら	83.58%	53.73%	61.19%	61.19%	53.73%	47.76%	65.67%	82.09%	76.12%	76.12%
消極的	77.98%	51.38%	55.96%	67.89%	49.54%	45.87%	54.13%	84.40%	67.89%	78.90%
しない	64.81%	31.48%	31.48%	48.15%	18.52%	18.52%	31.48%	72.22%	51.85%	55.56%
あえてしない	100.00%	50.00%	75.00%	75.00%	25.00%	50.00%	75.00%	100.00%	100.00%	100.00%
市全体の活動において										
参加度合	質問11	質問12	質問13	質問21	質問22	質問23	質問24	質問31	質問32	質問33
積極的	87.50%	100.00%	87.50%	93.75%	93.75%	87.50%	93.75%	100.00%	100.00%	100.00%
自主的	86.27%	62.75%	58.82%	68.63%	80.39%	56.86%	74.51%	82.35%	72.55%	70.59%
誘われたら	77.61%	62.69%	64.18%	64.18%	59.70%	55.22%	68.66%	86.57%	80.60%	80.60%
消極的	79.49%	50.43%	55.56%	70.94%	51.28%	45.30%	55.56%	84.62%	68.38%	81.20%
しない	69.01%	35.21%	38.03%	45.07%	30.99%	28.17%	32.39%	71.83%	56.34%	57.75%
あえてしない	100.00%	80.00%	100.00%	100.00%	40.00%	80.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%

地域活動に対し、協力的な行動をとる人ほど、地域資源と接触している確率が高いことがわかる。よって、地域資源との接触量が増えれば、地域活動への協力度合いも増し、自ら参加する傾向にあるといえる。

第4章 大野市への提案内容

4.1.2 地域活動に参加する人の特徴

「地域活動に参加する人」が持つ地域愛着についてまとめると図 4.1-1 のような結果が得られた。図のように、身近な活動に参加する人よりも市全体の活動に参加するの方が地域試着（選好）（心情）（願望）において高い数値を示し、身近な活動、市全体の活動のどちらにおいても地域試着（心情）が最も高かった。また、地域愛着（関心）と地域愛着（選好/心情/願望）との間には、「3=どちらでもない」をまたぐ関係が確認され、この2つの間には差があるといえる。さらに、地域資源との接触で最も影響を受ける地域愛着は（心情）であることがわかっている。この2つから、地域活動に参加する人の多くは、地域資源に関わる機会が多いと予想される。

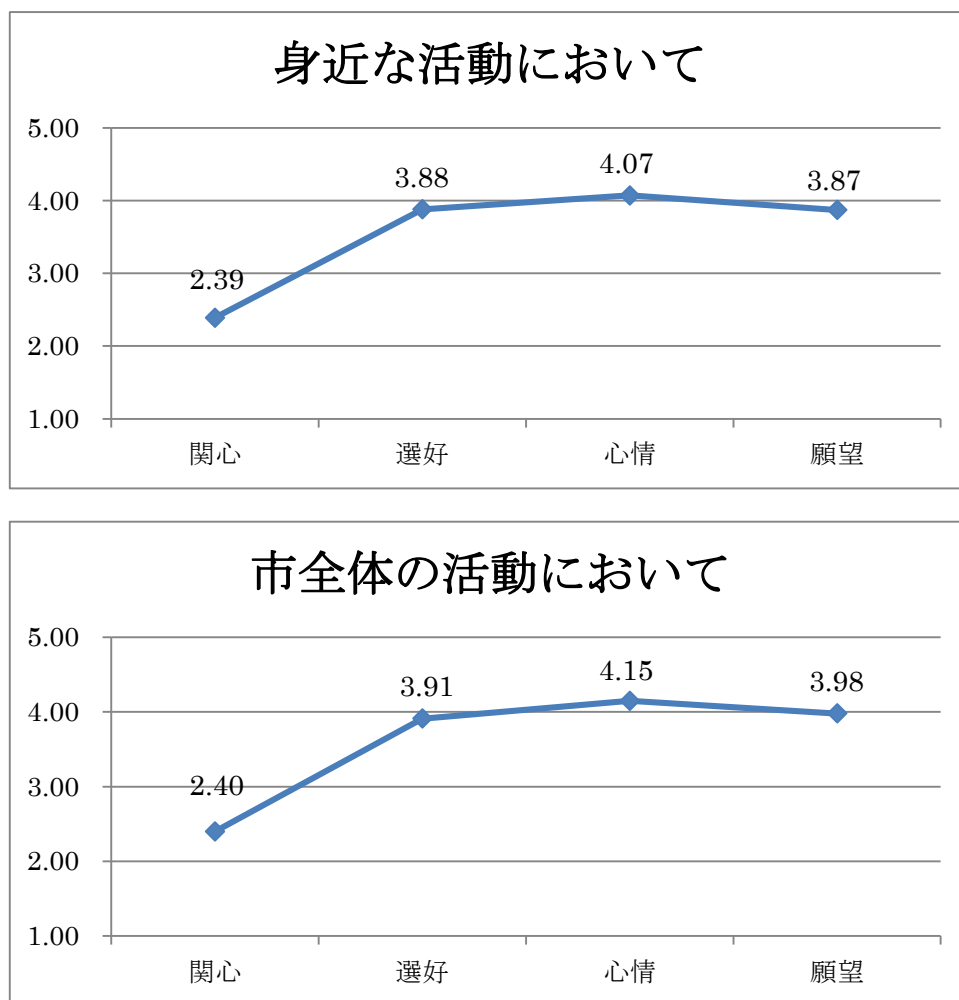


図 4.1-1 地域活動に参加する人の地域愛着

また、「地域活動に参加する人」がどれ程地域資源と接触しているかについてまとめると、表 4.1-1 のような結果が得られた。結果として、地域活動に参加する人は多くのシチュエーションにおいて様々な地域資源と関わっていることが確認された。

表 4.1-1 地域活動に参加する人の地域資源接触

地域資源(建造物)										
身近な活動において										
参加度合	質問1	質問2	質問3	質問21	質問22	質問31	質問32	質問33		
積極的	93.10%	75.86%	58.62%	82.76%	82.76%	93.10%	93.10%	93.10%		
自主的	92.06%	69.84%	55.56%	69.84%	80.95%	87.30%	80.95%	90.48%		
市全体の活動において										
参加度合	質問1	質問2	質問3	質問21	質問22	質問31	質問32	質問33		
積極的	93.75%	87.50%	68.75%	75.00%	93.75%	100.00%	100.00%	100.00%		
自主的	86.27%	62.75%	52.94%	76.47%	70.59%	88.24%	80.39%	92.16%		
地域資源(自然)										
身近な活動において										
参加度合	質問1	質問2	質問3	質問4	質問21	質問22	質問31	質問32	質問33	
積極的	86.21%	100.00%	82.76%	62.07%	79.31%	86.21%	96.55%	93.10%	96.55%	
自主的	88.89%	93.65%	77.78%	66.67%	71.43%	77.78%	96.83%	82.54%	95.24%	
市全体の活動において										
参加度合	質問1	質問2	質問3	質問4	質問21	質問22	質問31	質問32	質問33	
積極的	93.75%	100.00%	93.75%	81.25%	93.75%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	
自主的	84.31%	94.12%	74.51%	60.78%	74.51%	70.59%	96.08%	80.39%	94.12%	
地域資源(コミュニティ)										
身近な活動において										
参加度合	質問1	質問2	質問3	質問21	質問22	質問23	質問24	質問31	質問32	質問33
積極的	93.10%	86.21%	72.41%	79.31%	82.76%	68.97%	86.21%	93.10%	93.10%	93.10%
自主的	82.54%	66.67%	63.49%	71.43%	79.37%	63.49%	68.25%	82.54%	73.02%	76.19%
市全体の活動において										
参加度合	質問1	質問2	質問3	質問21	質問22	質問23	質問24	質問31	質問32	質問33
積極的	87.50%	100.00%	87.50%	93.75%	93.75%	87.50%	93.75%	100.00%	100.00%	100.00%
自主的	86.27%	62.75%	58.82%	68.63%	80.39%	56.86%	74.51%	82.35%	72.55%	70.59%

つまり、市民に地域資源との接触を促すことは、地域活動において望まれる協力行動をする市民が増える可能性が示唆される。

4.1.2 地域活動に参加しない人の特徴

ここでの「地域活動に参加しない人」は、住民参加型の地域活動において望まれる協力行動をする可能性が低い人とする。よって、アンケートにおいて、①「誘われたら参加する」「消極的に参加する」と回答した人と、②「参加しない」「あえて参加しない」と回答した人の特徴をまとめる。

①活動に参加しない人 1

まず、「地域活動に参加しない人 1」が持つ地域愛着についてまとめると図 4.1-2 のような結果が得られた。地域活動に参加する人に比べ、地域愛着の数値は小さく、特に、地域愛着（心情）（関心）において、地域活動に参加する人との間に差がみられた。また、地域愛着の4要素と活動への参加度合は同様の傾向がみられ、身近な活動、市全体の活動のどちらにおいても地域試着（心情）が最も高く、地域愛着（関心）と地域愛着（選好/心情/願望）との間には差がみられるものとなった。

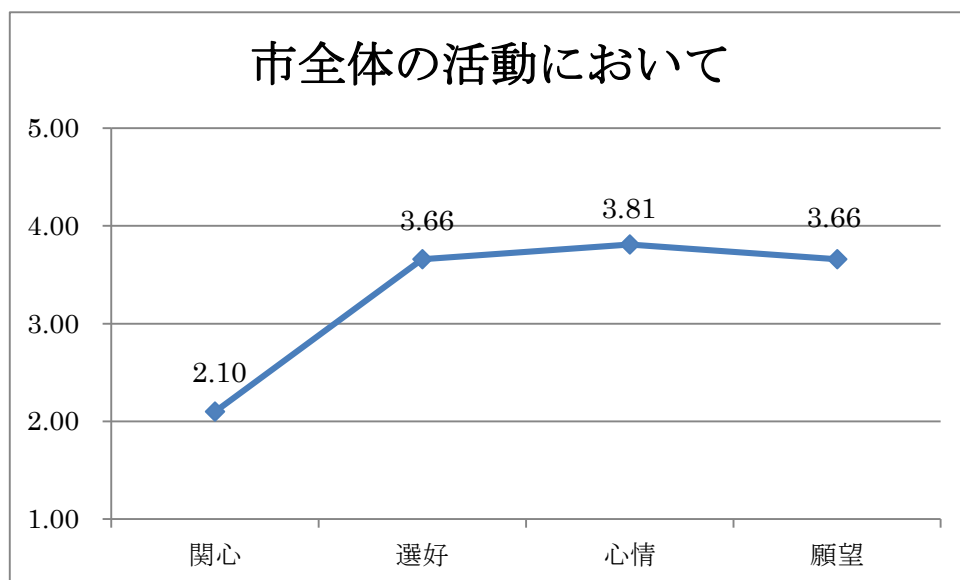
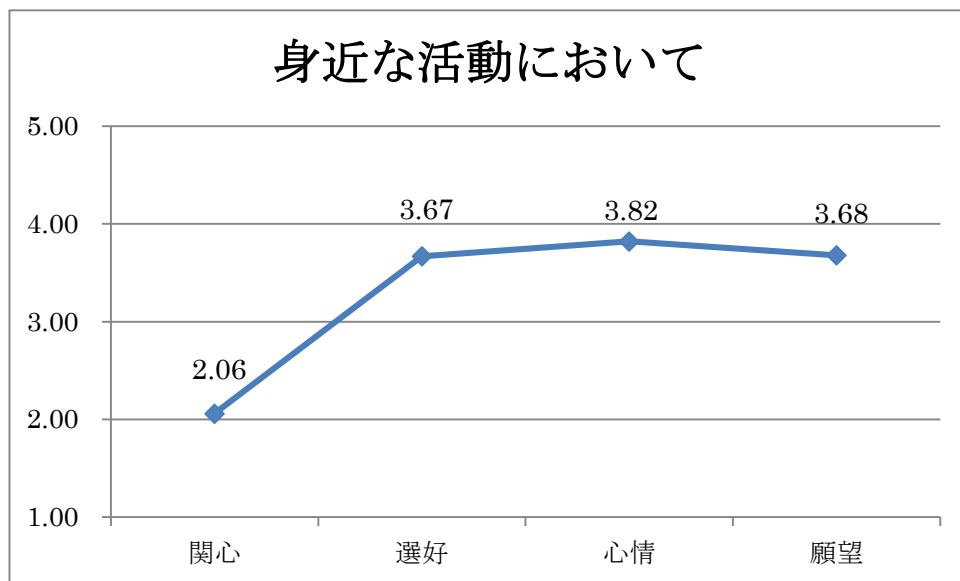


図 4.1-2 地域活動に参加しない人 1 の地域愛着

また、「地域活動に参加しない人 1」がどれ程地域資源と接触しているかについてまとめると、表 4.1-2 のような結果が得られた。地域活動に参加する人に比べ、地域資源と接触している人の割合は少ない。特に、地域資源（建造物）（自然）と「イベント」の中で接触している人の割合が非常に小さいことが確認された。

福井県大野市では、地域資源に関わる祭り・イベントが多く開催されている。つまり、その祭り・イベントへの参加を促すことができれば、市民の地域活動への協力度合いの向上につながる可能性があるといえる。

表 4.1-2 地域活動に参加しない人 1 の地域資源接触

地域資源(建造物)										
身近な活動において										
参加度合	質問1	質問2	質問3	質問21	質問22	質問31	質問32	質問33		
誘われたら	77.61%	56.72%	46.27%	50.75%	53.73%	89.55%	79.10%	85.07%		
消極的	88.99%	57.80%	38.53%	47.71%	38.53%	89.91%	69.72%	87.16%		
市全体の活動において										
参加度合	質問1	質問2	質問3	質問21	質問22	質問31	質問32	質問33		
誘われたら	76.12%	58.21%	49.25%	47.76%	59.70%	85.07%	79.10%	83.58%		
消極的	93.16%	62.39%	41.88%	48.72%	42.74%	92.31%	72.65%	89.74%		

地域資源(自然)										
身近な活動において										
参加度合	質問1	質問2	質問3	質問4	質問21	質問22	質問31	質問32	質問33	
誘われたら	92.54%	91.04%	68.66%	56.72%	50.75%	58.21%	94.03%	80.60%	92.54%	
消極的	88.99%	92.66%	66.06%	54.13%	55.05%	55.96%	91.74%	69.72%	88.07%	
市全体の活動において										
参加度合	質問1	質問2	質問3	質問4	質問21	質問22	質問31	質問32	質問33	
誘われたら	86.57%	88.06%	62.69%	50.75%	55.22%	59.70%	88.06%	79.10%	88.06%	
消極的	91.45%	94.02%	65.81%	57.26%	52.14%	58.97%	93.16%	70.94%	92.31%	

地域資源(コミュニティ)										
身近な活動において										
参加度合	質問1	質問2	質問3	質問21	質問22	質問23	質問24	質問31	質問32	質問33
誘われたら	83.58%	53.73%	61.19%	61.19%	53.73%	47.76%	65.67%	82.09%	76.12%	76.12%
消極的	77.98%	51.38%	55.96%	67.89%	49.54%	45.87%	54.13%	84.40%	67.89%	78.90%
市全体の活動において										
参加度合	質問1	質問2	質問3	質問21	質問22	質問23	質問24	質問31	質問32	質問33
誘われたら	77.61%	62.69%	64.18%	64.18%	59.70%	55.22%	68.66%	86.57%	80.60%	80.60%
消極的	79.49%	50.43%	55.56%	70.94%	51.28%	45.30%	55.56%	84.62%	68.38%	81.20%

②活動に参加しない人 2

まず、「地域活動に参加しない人 2」が持つ地域愛着についてまとめると図 4.1-3 のような結果が得られた。地域活動に参加する人、地域活動に参加しない人 1 に比べ、地域愛着の全ての要素において数値は小さかった。また、地域愛着の 4 要素と活動への参加度合は同様の傾向がみられ、身近な活動、市全体の活動のどちらにおいても地域試着（心情）が最も高く、地域愛着（関心）と地域愛着（選好/心情/願望）との間には差がみられ。

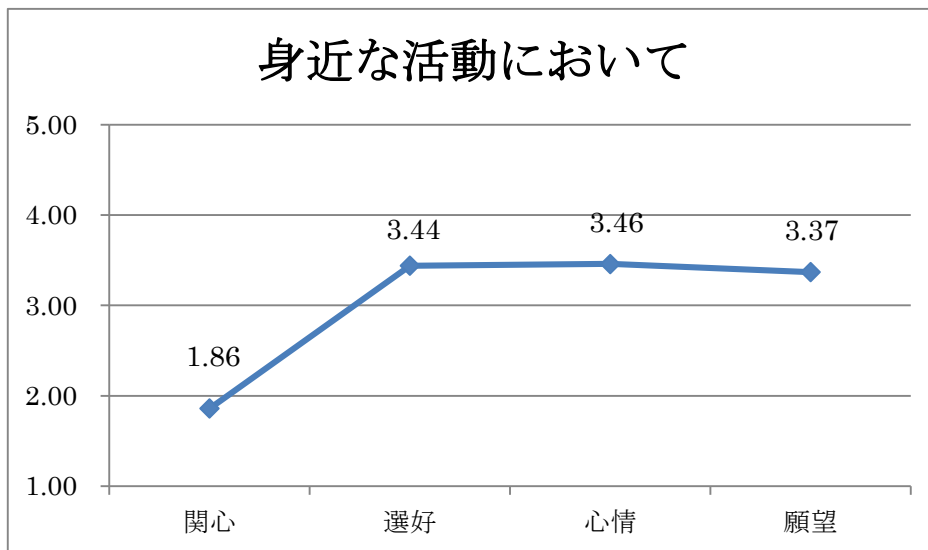


図 4.1-3 地域活動に参加しない人 2 の地域愛着(1)

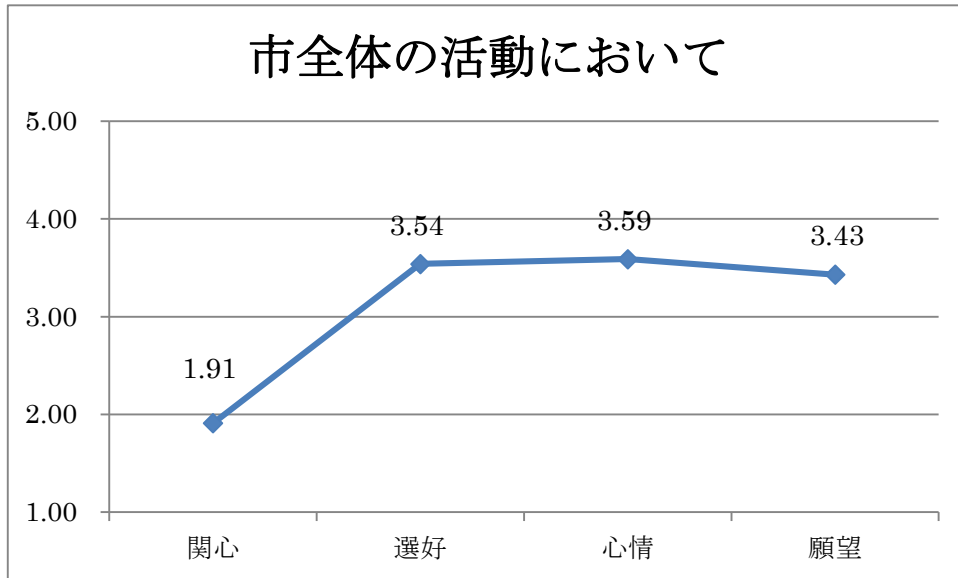


図 4.1-3 地域活動に参加しない人 2 の地域愛着(2)

また、「地域活動に参加しない人 2」がどれ程地域資源と接触しているかについてまとめると、表 4.1-3 のような結果が得られた。「あえて参加しない」の母数が、他の参加度合と比べ小さいため、正確なデータとは言い難いが、「参加しない」のデータを見ると、地域活動に参加する人、参加しない人 1 に比べ、地域資源との接触が非常に少ない傾向にあることがわかった。特に、地域資源（建造物）（コミュニティ）と「生活」の中で接触している割合、地域資源（建造物）（自然）（コミュニティ）と「イベント」の中で接触している割合が小さいことがわかった。つまり、地域活動に参加しない人 1 同様、大野市で開催される祭り・イベントへの参加を促すことができれば、市民の地域活動への協力度合いの向上につながる可能性があるといえる。また、日常生活の中で、人とのつながりを感じる機会が増えること、小中学校時、教育の一環として、大野市の歴史について学ぶ場を設けることも、市民の地域活動への協力度合いの向上に必要なことなのかもしれない。

表 4.1-3 地域活動に参加しない人 2 の地域資源接触

地域資源(建造物)										
身近な活動において										
参加度合	質問11	質問12	質問13	質問21	質問22	質問31	質問32	質問33		
しない	77.78%	44.44%	33.33%	24.07%	37.04%	87.04%	59.26%	70.37%		
あえてしない	100.00%	75.00%	25.00%	75.00%	75.00%	100.00%	100.00%	100.00%		
市全体の活動において										
参加度合	質問11	質問12	質問13	質問21	質問22	質問31	質問32	質問33		
しない	83.10%	46.48%	29.58%	39.44%	42.25%	85.92%	61.97%	71.83%		
あえてしない	100.00%	40.00%	60.00%	60.00%	80.00%	100.00%	100.00%	100.00%		

地域資源(自然)										
身近な活動において										
参加度合	質問1	質問2	質問3	質問4	質問21	質問22	質問31	質問32	質問33	
しない	75.93%	81.48%	55.56%	40.74%	27.78%	31.48%	77.78%	61.11%	81.48%	
あえてしない	100.00%	100.00%	75.00%	50.00%	75.00%	50.00%	100.00%	75.00%	100.00%	
市全体の活動において										
参加度合	質問1	質問2	質問3	質問4	質問21	質問22	質問31	質問32	質問33	
しない	78.87%	84.51%	66.20%	47.89%	39.44%	42.25%	83.10%	64.79%	81.69%	
あえてしない	100.00%	80.00%	100.00%	100.00%	40.00%	80.00%	100.00%	100.00%	100.00%	

地域資源(コミュニティ)										
身近な活動において										
参加度合	質問1	質問2	質問3	質問21	質問22	質問23	質問24	質問31	質問32	質問33
しない	64.81%	31.48%	31.48%	48.15%	18.52%	18.52%	31.48%	72.22%	51.85%	55.56%
あえてしない	100.00%	50.00%	75.00%	75.00%	25.00%	50.00%	75.00%	100.00%	100.00%	100.00%
市全体の活動において										
参加度合	質問1	質問2	質問3	質問21	質問22	質問23	質問24	質問31	質問32	質問33
しない	69.01%	35.21%	38.03%	45.07%	30.99%	28.17%	32.39%	71.83%	56.34%	57.75%
あえてしない	100.00%	80.00%	100.00%	100.00%	40.00%	80.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%

4.2 大野市への提案内容

“地域資源接触量”“地域愛着”“地域活動”について、これまでの結果より、以下の関係性があると考えられる。

- ①地域資源と接触することで、地域愛着（選好/心情/願望）が醸成され、その中でも、地域愛着（心情）が最も影響を受ける。
- ②地域愛着が強い人ほど、地域活動に協力的な傾向があるが、地域愛着（選好）（心情）（願望）が醸成されたときの地域活動の参加度合に、大きな差はない。また、年齢が高い人ほど地域活動に協力的な傾向がある。
- ③地域活動に協力的な人ほど、地域資源に接触している。つまり、地域資源との接触の増加が地域活動への協力的行動を促す傾向がある。

これらのことから、地域資源との接触による地域愛着（心情）の醸成が、大野市民が地域活動に参加するための動機づけにつながると考える。

このようなことから、これらの基礎調査をふまえ、より具体的な検討を進めていく必要がある。

第5章 まとめ

本研究では、福井県大野市において、地域活動に参加している人の意識を参加していない人にどのようにして広げていくか、また、地域活動に参加している地域住民が、さらに深く“地域活動”に関わるようになるにはどうすべきかといった2つのテーマを“地域資源接触量”と“地域愛着”といった2つの観点に着目し、アンケート調査を行った。その結果から、“地域資源接触量”“地域愛着”“地域活動”の関係性を考察した。

仮説① 地域資源との接触は、地域愛着を醸成させる。

地域資源（建造物/自然/コミュニティ）と接触することで、地域愛着（選好/心情/願望）が醸成される可能性は高い。その中でも、地域資源との接触は、地域愛着（心情）に最も大きな影響を与える可能性がある。また、地域資源との接触によって醸成される地域愛着において、地域愛着（関心）と地域愛着（選好/心情/願望）の間には、差がみられる。以上より、仮説①は立証される。

仮説② 地域愛着が醸成されると、地域活動に自ら参加する。

地域愛着が強い人ほど、地域活動への参加度合いは僅かではあるが高いことが確認された。しかし、地域愛着（選好/心情/願望）において、平均的な活動の参加度合いは、「誘われたら参加する」「消極的に参加する」の間であり、仮説②は立証されない。

仮説③ 地域資源との接触量を増加させると、地域活動に自ら参加する。

地域資源接触から地域愛着をみると、地域活動の参加度合いは、「誘われたら参加する」「消極的に参加する」の間であった。しかし、現在、地域活動に協力的に動いている人の多くは、様々な地域資源と（生活/イベント/観光(評判)）の中で接触している。特に、（イベント）の中で接触している人の割合の差が、地域活動に参加している人とそうでない人との間で大きかった。よって、（イベント）を通して地域資源と接触する機会が増えると、地域創生のために協力的に動く住民が生まれる。以上より、仮説③は立証される。

仮説④ 地域に対する個人的な嗜好の観点から当該地域を肯定的に評価する想いはあるが、活動に参加するなどの行動までに至らない地域愛着にとどまる人は、さらに地域資源との接触を促すことで、より深い地域愛着へステップアップできる。地域愛着ごとに、地域資源とのかかわりを見ていくと、地域愛着（選好）（心情）（願望）の間に大きな差は確認されなかったが、地域愛着（関心）にとどまる人は、地域愛着（選好/心情/願望）が醸成されている人に比べ、地域資源と接触している人の割合が少ないことが確認された。つまり、地域資源との接触が増加すれば、より深い地域愛着が醸成される。以上より、仮説④は立証される。

これらのことを踏まえ、以下の3つのことが今後の方針として整理できる。

- ✓ 「イベント」の中での地域資源接触の増加
- ✓ 学校教育などで、市について学ぶ機会を設ける
- ✓ 住民の大野市の地域資源を外に広げる活動への興味度・認知度を向上させる

これらのことが、大野市の地域活動が市民間に広がり、さらに住民に深く根づくために必要なことだと考える。今後は、その具体的な取り組みについて検討を進めたい。